第２回　北九州空港滑走路延長事業環境影響評価技術検討委員会
（議事要旨）

日　　時：令和３年７月６日（火）１３：３０～１５：３０
場　　所：旧大連航路上屋（北九州市門司区西海岸１－３－５）
出席委員：上田 直子（北九州市立大学 名誉教授）
岡田 恭明（名城大学 理工学部 教授）
川﨑 実（日本野鳥の会 北九州代表）
野上 敦嗣（北九州市立大学 国際環境工学部 教授）
松藤 康司（福岡大学 名誉教授）

＜敬称略：五十音順＞

議事要旨

１．環境影響評価に係る手続きについて

・事務局より、環境影響評価法に係る手続きについて説明を行った。

２．北九州空港滑走路延長事業に係る環境影響評価方法書（案）について

・北九州空港滑走路延長事業に係る環境影響評価方法書（案）について、事務局より説明を行い、以下の質疑及び助言がなされた。

【環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法】

委員　：方法書（案）の中にも、色々な機関から意見が出されているように、チュウヒについての記述が多くある。本日の北九州空港現地視察で同一個体の可能性はあるが、３回ほど確認した。７月に生息しているということは、繁殖の可能性も高い。今後の調査で、チュウヒのエサ取りの場、飛翔状況等を確認し、必要な環境保全措置を検討されたい。

委員　：大気質の航空機の運航について、調査予測手法は確立されたもののため問題ないと考えている。航空機の運航に係るGPU使用率の設定など、予測の前提条件設定はどのような考え方か。

事務局：予測では、現状及び将来の航空機運航を機材別に想定して排ガス量を推計する。エンジンからの排出量は国際民間航空機関（ICAO）の公表データを使用する。GPU使用率は、現状は航空会社へのヒアリングに基づき設定する。将来は北九州空港の環境計画も考慮して検討する。

委員　：空港を利用する車両による窒素酸化物の影響が最大と見込まれる時期での予測ということだが、航空機の貨物積載量はどの程度なのか。

事務局：確認する。

委員　：「資料２ 方法書説明資料」の37ページの陸生植物の調査地点が不明確である。現地調査ルートはどのように設定するか。予測手法も事例の引用又は解析とあるが具体的にどこまで決めているのか。

委員　：「資料２ 方法書説明資料」の35ページも同様、調査地点の配置は目安なのか確定しているのか。

事務局：陸生植物の調査は、飛行場外周の管理道路及び草地に踏み入って実施することとしている。また、改変される部分、それから航空灯火等が設置される部分といった地点の状況を満遍なく把握できるよう設定している。バードストライク調査地点は、航空機の飛行経路及び地上から高さ50mまでの範囲で衝突事例が多いという既往調査結果を踏まえて設定している。

委員　:「資料２ 方法書説明資料」の４ページにあるような拡大図を用い、調査地点を示されたい。
委員　:方法書にも調査地点の詳細を記載されたい。現在の資料は表現が不明確であり、議論がしにくい。
事務局:ご指摘踏まえ、修正する。
委員　:全国の約２％という北九州空港でのバードストライク発生件数は多いように思う。滑走路延長後の離着陸増加でバードストライク発生増加が懸念されるが、既往事例の検討で対応できるのか。
事務局:現在の鳥類の飛翔状況を調査し、今後の飛行経路、飛行高度との関係を見て検討する。
委員　:24時間運航するようになるとのことだが、時間帯も考慮するのか。
事務局:調査結果を時間別で整理することを想定している。ただし、夜間は飛翔する鳥類の種類が判別できないのでわかる範囲の対応となる。
委員　:準備書段階の予測においては、北九州空港が、24時間利用可能な空港であることを踏まえて予測するということか。
事務局:24時間利用可能な空港であることを踏まえて、発着回数の増加に伴うバードストライクの発生確率を予測することを想定している。
委員　:バードストライクの全国２％は専門家から見て多いのか、少ないのか。
事務局:国内空港における平成27年から令和元年の５年間のバードストライク発生件数の合計において他空港と比較すると、北九州空港は全国14位である。
委員　:鳥類の夜間飛翔について、ねぐらからエサ取り等で飛び立つことがある。また、渡りの時期も懸念される。鳥は光に呼び寄せられるので、空港島に集まるリスクはあるが、北九州港周辺は陸地側も明るいため、絶海の灯台ほど呼び寄せることは無いだろう。
委員　:「資料２ 方法書説明資料」の34ページの猛禽類調査地点は、曽根干潟と苅田港となっている。空港島内も実施されたい。
事務局:空港島内の調査は実施する。ご指摘の猛禽類調査地点は、空港島内調査とは別に、曽根干潟と苅田港から空港側を見て、猛禽類の飛翔状況を調査するというものである。
委員　:定点の設定と猛禽類の飛翔状況の確認をする旨、記載されたい。
委員　:「資料２ 方法書説明資料」の41ページの温室効果ガス予測手法も記述が不明確であり、具体的に示すべきである。省エネ設備の考慮等、前提条件を明確に記載されたい。
委員　:曽根干潟への影響の関心が大きいと考える。市や国土交通省が実施している既往調査の結果はすべて使用して現状を把握されたい。猛禽類以外にも、シギやコアジサシなどの鳥類も市民の注目が大きいので注意されたい。
委員　:「資料２ 方法書説明資料」41ページの廃棄物では、廃プラスチックや浮遊海洋廃棄物、海洋プラスチック等、現在着目されている項目もしっかり網羅したものにされたい。古いタイプのアセス資料と考えられ、環境省等から意見が来る可能性が大きい。
事務局:本日いただいた意見を踏まえた修正については委員長に一任でいかがか。
委員　:異議はない。

３．その他

事務局:意見の概要は方法書に掲載予定である。また、ホームページに本日の議事概要を掲載予定である。

以上